

# 宿泊療養における感染対策 (非医療従事者向け)

厚生労働省 新型コロナウイルス感染症対策推進本部



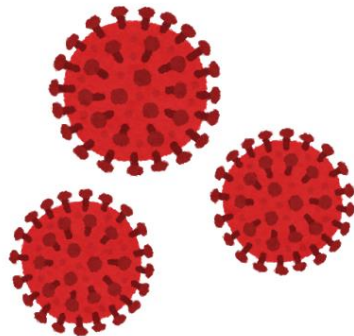
ひと、暮らし、  
みらいのために

聖路加国際大学 坂本 史衣 監修

# 新型コロナウイルス感染症について

## 新型コロナウイルスとは？

- ① これまでに人に感染する「コロナウイルス」は7種類見つかっており、その中の一つが、昨年12月以降に問題となっている「新型コロナウイルス（SARS-CoV2）」です。
- ② 新型コロナウイルスは、アルコール消毒（濃度70～90%）、界面活性剤（石けん）などで感染力を失うことが知られています。
- ③ 新型コロナウイルス（SARS-CoV2）による感染症を新型コロナウイルス感染症（COVID-19）と呼んでいます。



# 新型コロナウイルス感染症について

## どうやって感染するの？

現時点では、飛沫感染（ひまつかんせん）と接触感染の2つが考えられます。

### （１）飛沫感染

感染者が、せきやくしゃみ、会話をすると、ウイルスを含む飛沫が放出されます。感染者の近く（1～2メートル以内）にいる人が飛沫を吸い込んだり、飛沫が眼に入ると感染することがあります。

※感染がおりやすい場面：腕が届く距離で一定時間（目安として10分程度）話しをしたり、運動をするとき



### （２）接触感染

感染者が触れたモノや環境は、感染者の手についているウイルスで汚染されることがあります。そこに触れた未感染者の手にウイルスが付着し、その手で眼や口に触れると、感染することがあります。

※ウイルスで汚染されやすいところの例：ドアノブ、エスカレーターの手すり、電気のスイッチなど



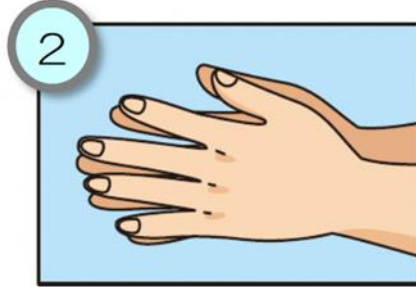
# 手指衛生について

ドアノブや電気スイッチなど様々なモノや環境表面に触れることにより、自分の手にもウイルスが付着している可能性があります。  
食事の配布やゴミ回収の前後などに、こまめに手指消毒／手洗いを行います。

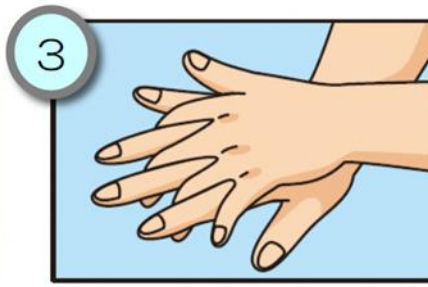
## 正しい手指消毒



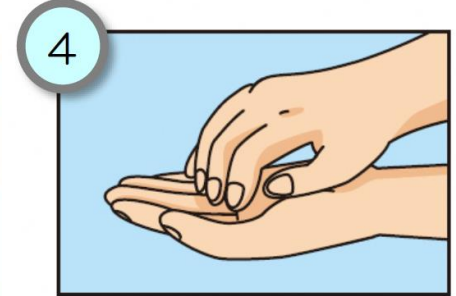
1 十分な量を  
手の平に取ります



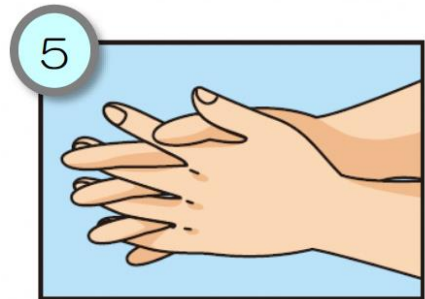
2 手のひらを  
こすりあわせます



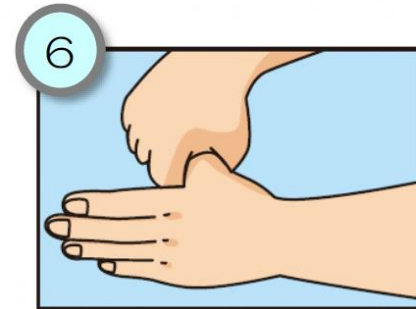
3 手の甲を合わせて  
すりこみます



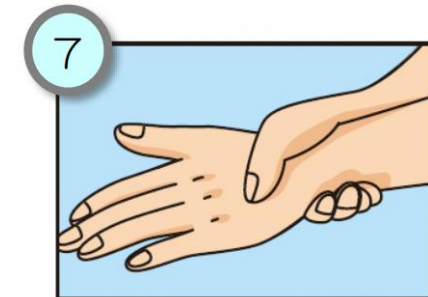
4 指先・爪の間に  
すりこみます



5 指の間にすりこみます



6 親指をねじり合わせて  
すりこみます



7 手首にすりこみます



十分に乾燥した  
ことを確認します

# 手指衛生について

## 正しい手洗い



1 初めに、水で手を濡らし、石けんを手に取ります



2 石けんをよく泡立てながら、手の甲を伸ばすように洗います



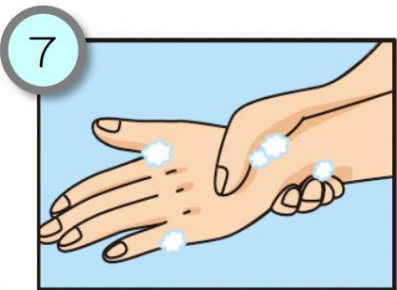
4 指先・爪の間を念入りに洗います



5 指の間を洗います



6 親指をねじりながら洗います



7 手首を洗います



8 流水で石けんと汚れを洗い流します



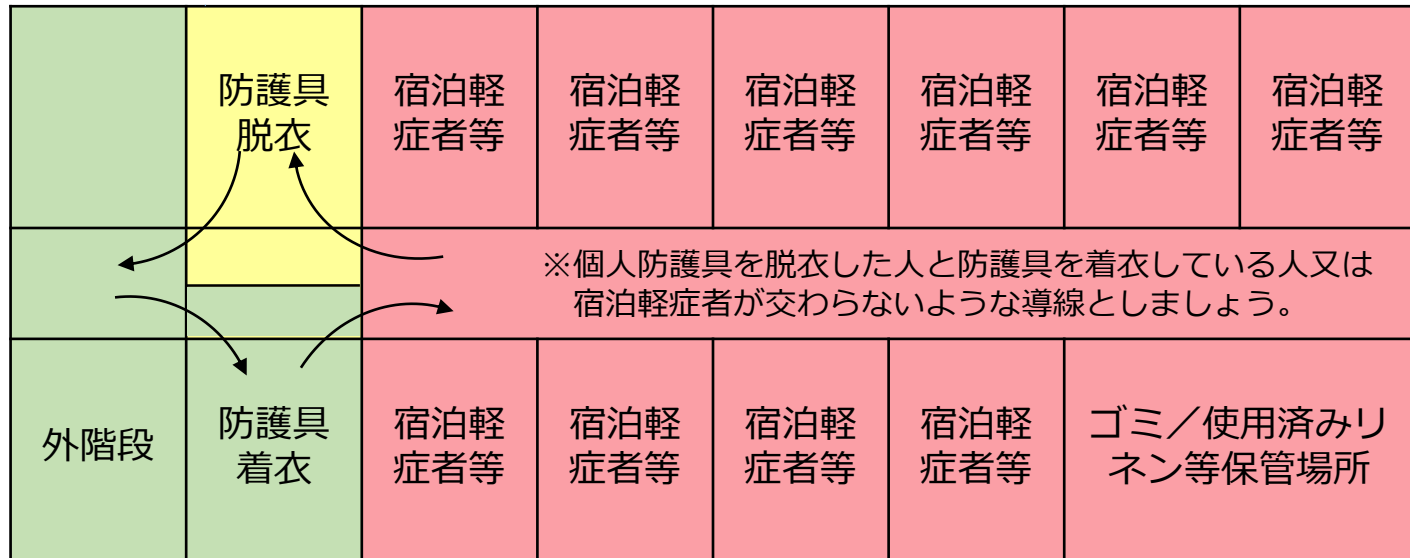
9 ペーパータオルでしっかりと、水分を拭き取ります

# ゾーニングについて

## ゾーニングとは？

清潔な区域（清潔区域）とウイルスによって汚染されている区域（汚染区域）を区別することをゾーニングといい、感染拡大防止のために重要です。患者は汚染区域でのみ生活し、職員は極力清潔区域内で活動し、汚染区域に入る際は、必要な個人防護具を着用します。

<イメージ図>



- 汚染区域に入る前に「防護具着衣室」で 個人防護具 の着衣を行います。
- 汚染区域を出る前に「防護具脱衣室」で個人防護具の脱衣を行います。脱いだ防護具は室内に設置した廃棄物容器に入れます（容器の外にあふれないように注意）。

# 個人防護具について

血液・体液・分泌物・排泄物など

手に触れる可能性がある場合

手袋



衣服に飛び散る可能性がある場合

ガウン



エプロン



または

眼に飛び散る可能性がある場合

ゴーグル



または

フェイスシールド



口・鼻に飛び散る可能性がある場合

+

(自分の飛沫を拡散させたくない場合)

サージカルマスク

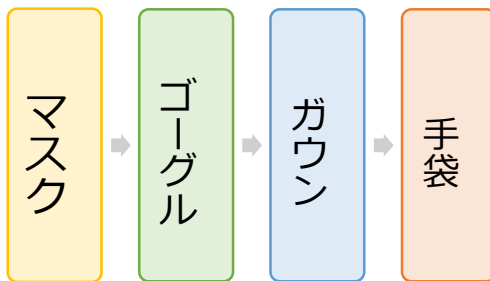


汚染区域に入る際には、手袋、ガウン、サージカルマスクを着用します。  
なお、トイレや浴室の消毒を行う場合にはゴーグルの着用を考慮します。

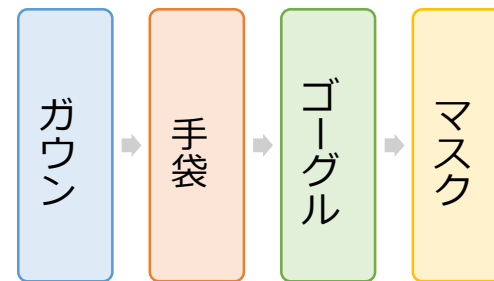
# 個人防護具の着脱方法



着衣時の順序



脱衣時の順序





# 生活支援における留意点

- 原則、職員は宿泊軽症者等と対面では対応せず、電話対応を基本とします。
- 食事の配布については、原則として、各部屋の前に届けます。ただし、宿泊軽症者等が無症状である場合は、決められた時間帯に自ら食事置き場に取りに行くなど、職員と接触しない形での配布が可能であれば、配布方法を工夫しても構いません。
- 居室からのゴミの回収については、ゴミ袋を配布し、部屋の前に置いたものを回収します。ただし、食事と同様に、宿泊軽症者等が無症状である場合には、職員が軽症者等と接触することなく、衛生的に回収することが可能であれば、各フロアで宿泊軽症者等が自ら回収容器に入れるなどの対応を取っても構いません。
- 食事の配布やゴミの回収はまとめて行うなど、汚染区域に入る回数を最小限にするようにします。
- 退去後の居室内の清掃では、床や壁などにできる限り、体が触れないように注意します。浴室清掃を行う場合は、シューカバーまたは長靴の着用を考慮します。
- 使用済みのリネン類を回収する際には、抱きかかえず、カートを使用するなど、できる限り、体に触れないように運びます。
- ゴミや使用済みリネン類などの汚染物を汚染区域外へ運び出す際は、ビニール袋に入れて密封し、汚染物が袋の外に出ないように注意します。